

インナー大会プレゼン部門 2017 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) リッショウダイガク	フリガナ) ケイザイガクブ	フリガナ) カワグチゼミ
立正大学	経済学部	川口ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 動画 (有・無)
フリガナ) カワグチゼミAチーム	フリガナ) フクダシュンスケ	4	無
川口ゼミAチーム	福田俊介		

※プレゼンツールを使用する場合は記入してください。記入がないプレゼンツールは大会当日使用できません。

使用するプレゼンツール (具体的に使用するツールを明記してください)

研究テーマ (発表タイトル)

女性が子育てしやすい環境を～子ども食堂による新しいつながり～

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要 (目的・狙いなど)

最近ニュースで見かけることが増えた子ども食堂に興味を持ち、女性が子育てしやすい環境作りに学生なりに何かできることはないかと考えました。

そこで私たちは、女性が子どもを産み育てやすい環境を作るためには「経済的問題」と「心理的問題」の二つを解決しなければならないと考え、経済的問題の解決は学生の私たちでは難しいと思い、子ども食堂を利用し新たなつながりを作ることによる心理的問題の解決を目的とし研究しました。

2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

人口の横ばいに必要とされている出生率は 2.07 ですが、平成 27 年度の出生率は 1.45 と下回っているため日本の人口は減少傾向にあるといえこのままでは超少子高齢化は進んでいく一方です。

第5表 年齢（5歳階級）・出生順位別にみた合計特殊出生率（内訳）

(1) 年齢（5歳階級）別

年 齢	昭和60年	平成7年	12年	17年	22年	25年	26年	27年
総 数 (合計特殊出生率)	1.76	1.42	1.36	1.26	1.39	1.43	1.42	1.45
15～19歳	0.0229	0.0185	0.0269	0.0253	0.0232	0.0221	0.0224	0.0206
20～24	0.3173	0.2022	0.1965	0.1823	0.1781	0.1555	0.1487	0.1475
25～29	0.8897	0.5880	0.4967	0.4228	0.4356	0.4298	0.4204	0.4215
30～34	0.4397	0.4677	0.4620	0.4285	0.4789	0.5016	0.5033	0.5173
35～39	0.0846	0.1311	0.1572	0.1761	0.2318	0.2677	0.2747	0.2864
40～44	0.0094	0.0148	0.0194	0.0242	0.0387	0.0486	0.0516	0.0557
45～49	0.0003	0.0004	0.0005	0.0008	0.0010	0.0013	0.0014	0.0015

注：年齢階級別の数値は各歳の年齢別出生率を合計したものであり、算出に用いた出生数の15歳及び49歳にはそれぞれ14歳以下、50歳以上を含んでいる。

なぜ女性は子どもを産まなくなっているのだろうかと考え、厚生労働白書の子育てに関する意識より、子どもを産まなくなっている理由として、子育てにお金が掛かるといった経済的理由と育児の心理的負担に耐えられないといった心理的理由、子どもがのびのび育つ環境がないといった社会環境の三分野が挙げられました。

以上の現状分析を踏まえて見えてきた問題点として、子育てや教育にお金がかかるため産み育てることは困難だと考え、子どもを1人もしくは産まないと推測されることや都内に仕事の関係などで上京してきた家族には頼れる親戚や友人が近くにいないことが多く、子育ての不安を一人で抱えることになってしまうことの二つの問題を経済的問題・心理的問題に分類しました。

そこで私たちは、この心理的問題点を解決できるであろう子ども食堂に着目しました。

子ども食堂の通説としては、「食材は寄付、調理は地域のボランティアが手掛けることが多く、無料または数百円で食事を提供する。経済的な理由から、家で満足な食事を取れない子どもに暖かい食事を提供する。趣旨に賛同した地域のボランティアや子育て支援などに携わる大人が運営に参加し、子ども食堂は社会運動のトレンドになりつつある」と東洋経済新聞に記載されています。しかし実際にボランティア活動に参加してみると、貧困や孤食の子どもはあまり見かけることがなく一般家庭が多く参加しており、主催者側と参加者の間にミスマッチが起きているとわかりました。

3. 研究テーマの課題

子ども食堂で新しい「つながり」を持つことによって女性が子育てをしやすい環境をつくれる。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

ミスマッチを解消するのではなく、新しいコミュニティの場として子ども食堂を利用することを提案します。

子ども食堂にボランティア活動を行うと一般的通説では子どもを対象とされていますが、実際は子どもだけの参加は少なく家族連れが多く通説との間にミスマッチが起きていました。そのミスマッチを解消するのではなく新しいコミュニティとして利用し、母親同士の「つながり」ができることを期待します。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

私たちはボランティア活動先にアンケート調査を行いました。

また、昨年の小田原市保育政策プランナーで母親を対象としたヒアリング結果を参考にしました。

6. 結果や今後の取り組み

子ども食堂で新しい「つながり」を持つことによって女性が子育てをしやすい環境をつくれることがわかりました。

今後は、子ども食堂のことをより多くの母親に知ってもらうために周辺の子ども食堂をまとめたマップの作成と保育園や幼稚園への声掛けやチラシ配りを行いたいと考えています。

7. 参考文献

平成27年度第4次男女共同参画基本計画における成果目標の動向

東洋経済新聞 2016年6月4日

朝日新聞 2016年7月1日

東京新聞 2015年12月19日

神奈川新聞 2016 年 11 月 7 日

テレビ神奈川 2016 年 11 月 10 日

厚生労働省：平成 25 年版厚生労働白書第 3 節

：平成 27 年度厚生労働省特殊合計出生率

的場康子：2011 年 10 月育児のための時短勤務と現状課題

：2009 年 7 月子育てしやすい地域社会の構成のために

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、インナー大会・東京経済大学大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経 BP マーケティング社様に作製していただく大会結果 HP に本企画シートは掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の(過去に他誌・HP などに発表されていない)ものに限りです。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※プレゼンツールを使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ ここまでを 4 ページ以内におさめて、提出してください